

2021年度通常枠PO研修

事後評価報告・事業終了に向けて

一般社団法人全国食支援活動協力会 大池 絵梨香

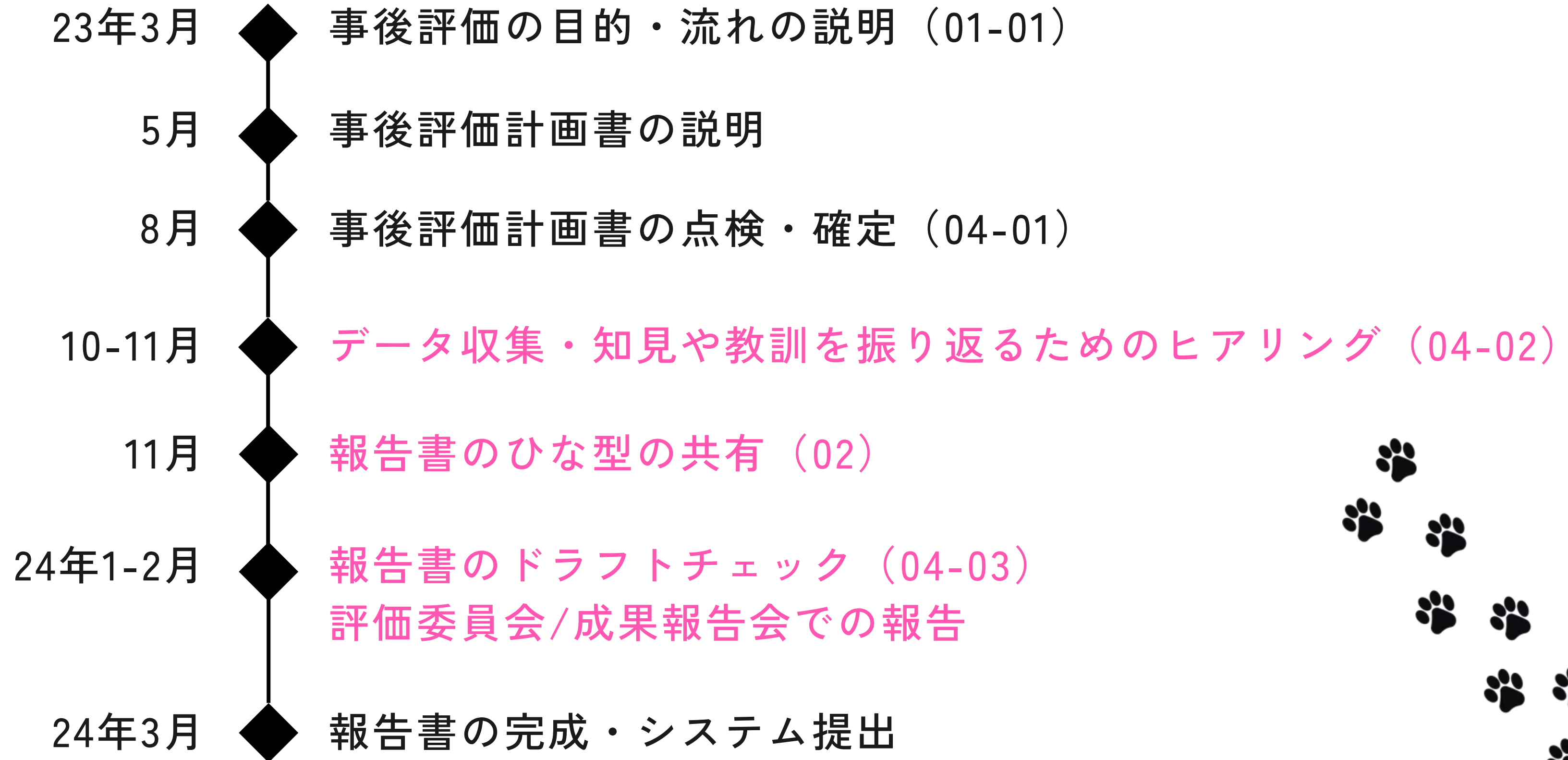


本 日 お 話 し す る こ と

1. 事後評価報告の全体スケジュール
2. 報告書のまとめ方
3. 事後評価計画の作成について
4. 実行団体への報告に向けた支援
5. 実施から得た知見と学び

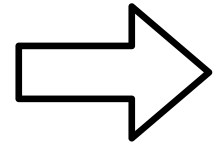
01

事後評価の全体スケジュール



01 事後評価の目的・流れの説明として以下の項目・内容を提示

■ 目的

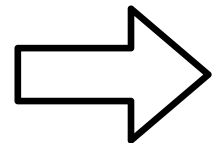


・短期アウトカム1～3の達成状況の確認(評価小項目①～③)←
・中間アウトカム「企業・NPO・行政の連携によって地域が子ども達を地域で支えるための資源が循環するに」
の発現に寄与しているかの確認←
⇒①～③の評価結果を踏まえた考察＋食支援のための広域物流ネットワークのモデルがどこまで構築でき
たかどうか←

■ 実施体制

■ スケジュール

■ 評価計画案



事後評価で収集したいデータ等(案)←

評価小項目(資金的支援)←	評価基準←		←
	判断方法(指標など)←	判断基準値(目標値/状態など)←	データ収集方法←
① 資源を循環させるためのロジ拠点(共 同事業体あ るいはコンソーシアム)が作ら れ、有効に機能する←	・実行団体が連携できる関係機関・団体← ・関係機関との連携内容←	・エコマップの広がりから判断← ・事業終了後も継続な対話を行うブ ラットホームが構築されている←	エコマップの作成、実行委員参画団体からの 聞き取り←
② 支援地域に企業・行政から様々な人・モ ノ・カネが集まる←	・提供食品量(県内・県外)← ・支援企業・行政課の実績数←	＊＊トン(資金分配団体からの配分実 績含む)← ＊＊社・団体←	実績から把握←
③ ロジ拠点が集まった資源を分配できる ようになる←	・分配先団体数← ・実行団体が開発した物流関係資本の広 がり、事業終了後も資源を分配できる体 制が整っているか←	＊＊団体← 物流体制図の前後比較で判断← ←	物流における連携事例(どうやってつながっ たのか、実際に支援いただいている内容、今 後の課題・展望など)の収集← ←
④ (事業効率性の分析)事業実施のための インプットを無駄にせず事業に活かせたか←	《基礎指標例》← ・運営管理コストの妥当性← ・過大な支出はなかったか← ・遊休状態のインプットはあるか←	＊＊＊＊＊← ←	＊＊＊＊＊← ←
⑤ (組織基盤強化の分析)←	《指標例》← ・寄贈品を効率的に受け止めるための事 務局でシステム化を試みたか← ・モデル形成を行うにあたっての人材育 成度←	＊＊＊＊＊← 例)寄贈担当者を設けた、寄贈管理シ ステムの運用、お礼状のアプリ化等← ←	＊＊＊＊＊← ←

02 報告書のまとめ方

もくじ

1 | 基本情報・事業概要・報告書要約

2 | 事後評価実施概要

2-1 実施概要

2-2 実施体制

3 | 事業の実績

3-1 インプット（主要なものを記載）

3-2 活動とアウトプットの実績

3-3 外部との連携の実績

4 | アウトカムの分析

4-1 アウトカムの達成度

4-2 波及効果

5 | 成功要因・課題

6 | 組織基盤強化の分析

7 | 結論

7-1 事業実勢のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

7-2 事業実施の妥当性

8 | 提言

9 | 知見・教訓

10 | 資料（別添）

参考)
全国食支援活動協力会の事後評価報告書

https://mow.jp/_userdata/pdf/2024/kyumin2020_zigohyoukafin.pdf

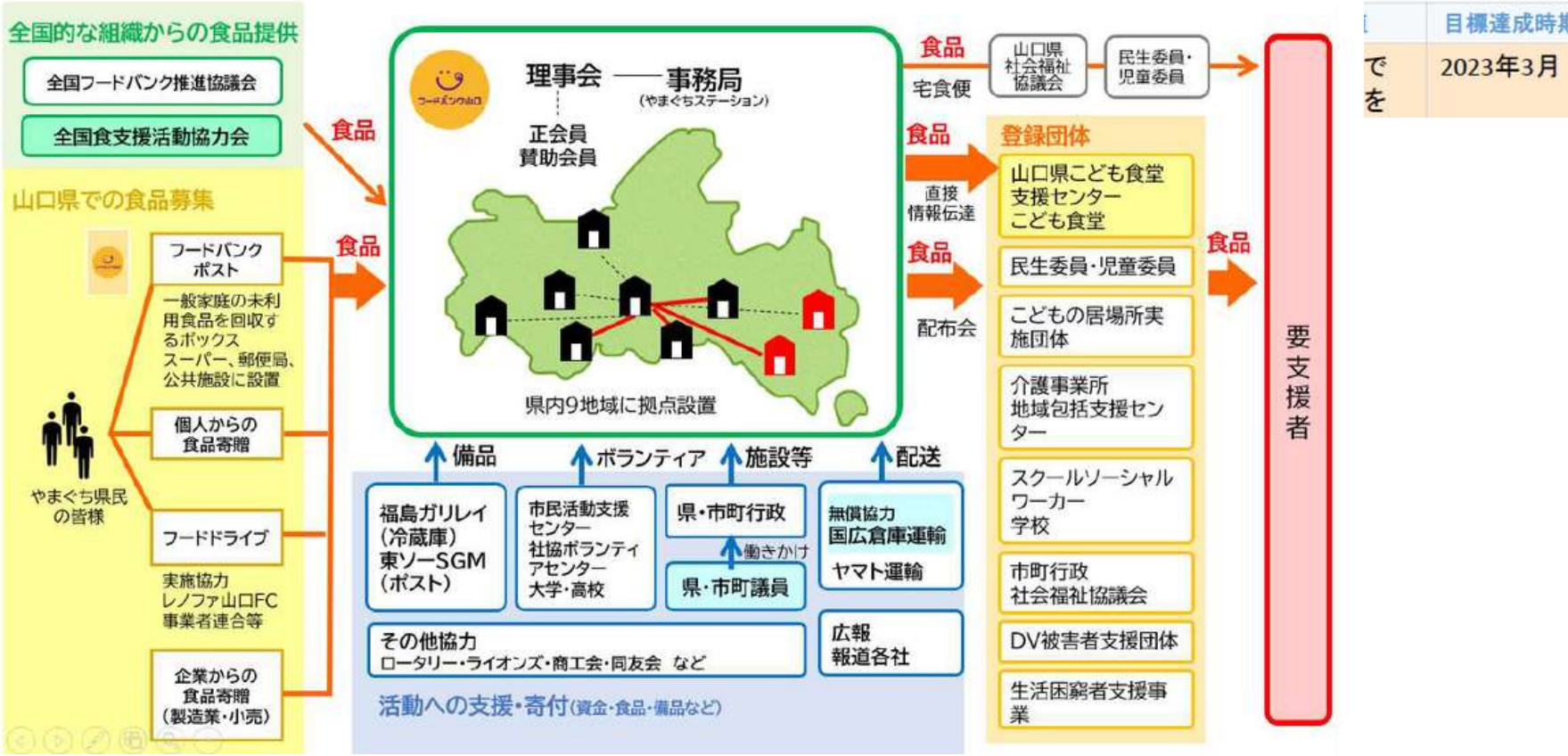
3-2. 活動とアウトプットの実績

主な活動（概要）	アウトプット	指標	初期値	目標値	目標達成時期
・分配するルールについて協議する ・拠点間の食品の効率的な運搬方法を確認するため山 口ロジハブ実行委員会と協議する ・各ハブ拠点の活動状況を把握する ・必要な拠点の数やストック許容量について協議する	0101.ロジ拠点が ハブ拠点と解決 すべき課題を共 有できている	ロジ・ハブ拠点 で構成する協議 会の開催数や内 容	年1～2回 開催	年3～4回 開催	2023年3月

実績値

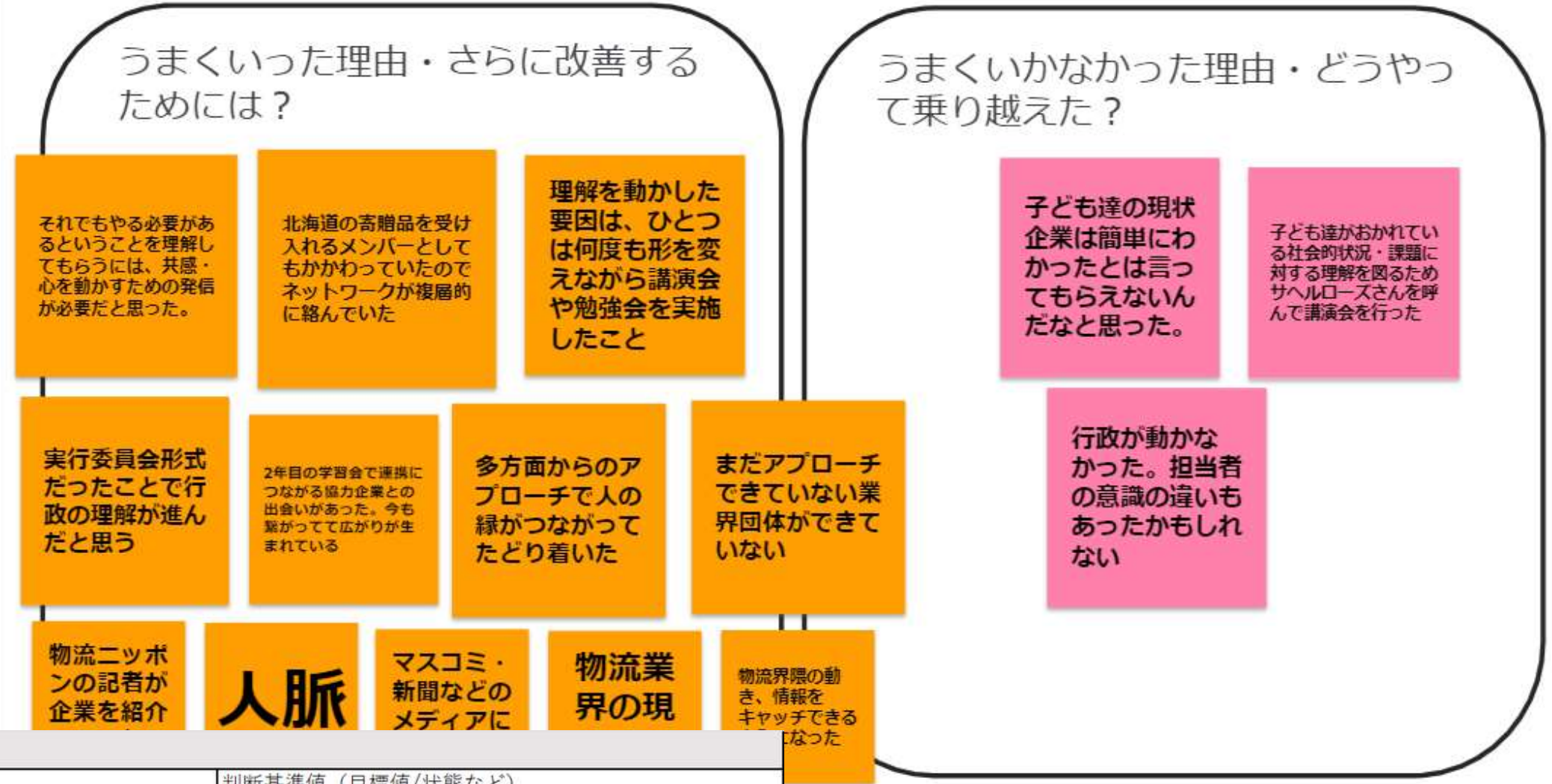
1年目：ロジ拠点と県内に6ヶ所あるハブ拠点の担当者を対象とした会議を、年4回開催する方針を2022年1月に決定し、以後定期的に実施。新たに1ヶ所ハブ拠点が開設し、既設と新設の拠点間での情報共有や全体方針の伝達などを行っていった。ロジシステム導入にあたり、コーディネーターが支援団体へのシステム導入説明会を2回実施。
2年目：従来の食品受入れに加えて、域外からの食品受入れが始まったことで、各拠点の許容量等が明確に把握された。ロジシステム運用にあたり、各拠点と支援団体26団体で導入。

3-3. 外部との連携の実績



03 事後評価計画の作成について

項目・評価小項目
判断方法（指標）
判断基準（目標値/目標状態）
入手手段



項目	評価小項目	評価基準	
		判断方法（指標など）	判断基準値（目標値/状態など） 青字が入手手段
アウトカムの分析：	セントラル・ロジ拠点が集まった物資をロジ拠点とシェアできるようになる	北海道ロジネットワーク内の物流体制図	ロジネットワーク内の物流体制図
アウトカムの分析：	セントラル・ロジ拠点が集まった物資をロジ拠点とシェアできるようになる	セントラルロジ⇒ロジへの食品提供量	定量データの収集：資金分配団体からの支援物資量+独自の取扱量から算出
アウトカムの分析：	北海道ロジネットワーク全体にヒト・モノ・カネが集まったかどうか	40機関・団体 ※事業計画書より抜粋	実績のカウント
活動の改善・知見の共有：	支援企業・団体の獲得にあたって有効であったアプローチ方法を見出すことができたかどうか	食フェスタの実行委員会メンバー（事業開始時と終了時との比較）、催事の参加者層	食フェスタやロジハブ説明会のプログラム内容や巻き込む関係者、当日参加者を増やす工夫が事業開始時と比べ知見を教訓に改善されているか HIF担当者・PO・評価アドバイザーの3者で振り返りを行う
		食フェスタの開催時と、ロジハブの開催時とを比較した際に受け止め・分配体制が広がり効率化が図られている	



04 実行団体の報告に向けた作成支援

01

収集データの確認

事後評価をするためにどんな定量・定性データが必要かを事前に確認しておき、事後評価で改めて収集すべきデータがどれくらいあるかを把握

8月

02

報告書の項目の確認

3年間の活動を振り返り、
①得られた変化、②中々うまく進まなかった活動をどう改善できたか等、できたことと出来なかったことの整理を実施

10-11月

03

報告書の内容の確認

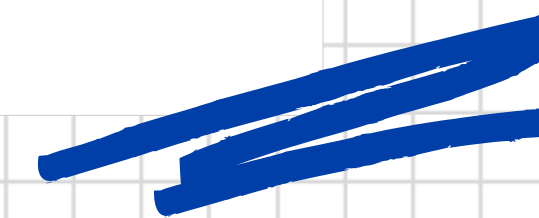
提出された報告書に記載されている内容のなかで、**根拠として不足している情報やヒアリングで確認していた実績の加筆**を依頼。

24年1-2月

05 実施から得た知見と学び



やってよかったこと	むずかしかったこと	おすすめすること	おすすめしないこと
<ul style="list-style-type: none">共通のロジックモデル<ul style="list-style-type: none">指標を設定していたことで資金分配団体と実行団体で共通のアンケート調査を活用することができたひな型を提供することで必要最低限書いてほしい内容を伝えやすかった *	<ul style="list-style-type: none">アウトカムの変化に対する成功要因や課題にかんして深掘りて考察するための問いの設定実行団体の作業ペースの進捗管理	<ul style="list-style-type: none">ある程度どのようなことが言えそうかの見立てや情報の整理を一緒に行う事一緒に把握できるデータがないかあらかじめ確認しておく事	<ul style="list-style-type: none">折角作った報告書が日の目に当たらない実行団体の報告と資金分配団体の報告がバラバラになっている



おわりに

2回目の事後評価でしたが、大変でした。余裕をもって工程表を作っておくと資金分配団体も実行団体も安心だと思います。
また、資金分配団体が先んじてこんなものを作ります、と提示してあげた方が、実行団体としては成果物のイメージ（作業量・内容の精度など）を持って取り組むことができると思います。

資金分配団体と実行団体とで、提言や教訓として記載する内容はそれぞれの立場に応じて主眼を変えて発信することを心掛けました。今後の事業推進に向けて関係者に読んでいただくためには、もっと工夫が必要だったと感じています。皆さんも**実行団体と事後評価で休眠事業で得られたどんな変化を確認したいのか、それを誰に伝えたいのか**を確認されることをおすすめします！





THANK YOU

ご清聴ありがとうございました。